

会 議 録

会議名 (審議会等名)		令和7年度 第1回相模原市経営評価委員会		
事務局 (担当課)		経営監理課 電話042-769-9240 (直通)		
開催日時		令和7年4月10日(木) 午後6時30分～午後8時15分		
開催場所		相模原市役所 第2別館3階 第3委員会室		
出席者	委員	6人(別紙のとおり)		
	事務局	6人(政策部長、経営監理課長、同主幹、同総括副主幹、同主査、同主査)		
公開の可否		<input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input checked="" type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	1人
公開不可・一部不可の場合は、その理由		相模原市情報公開条例第7条第5号に該当する事項のため		
会議次第		1 開会 2 議事 「さがみはら都市経営戦略」について 3 その他 4 閉会		

審 議 経 過

主な内容は次のとおり。

1 開会

定足数及び傍聴者の確認を行い、経営評価委員会を開会した。

なお、次第「3 その他」については、相模原市情報公開条例第7条第5号に該当する事項のため、相模原市審議会等公開基準第2条第2号に基づき非公開とすることとした。

2 議事

「さがみはら都市経営戦略」について

経営監理課長より、資料1、資料2-1及び資料2-2に基づき説明を行った。

答申案については、本日の意見を踏まえ事務局で修正し、文案については委員長に一任することを確認した。

(以下、質疑応答・意見交換 ○は委員の発言、●は市及び事務局の発言)

- 基本戦略1の取組内容について、もっとページを割いて色々な取組を記載しても良いのではないかと。(荻野委員)
- 戦略の本文において、取組内容等を記載している。また、取組内容・指標の項目において、前回までの議論を踏まえ、取組内容を追記した。答申を踏まえ、市で戦略案を策定する際に、検討したい。(経営監理課主幹)
- P28 取組2-3の表題について、「大学」という言葉を記載し、本文との整合を図って欲しい。(出口委員)
- 検討したい。(経営監理課主幹)
- 指標については、インプット指標は使用しないのか。どれだけ予算をかけたのかも重要ではないかと。(荻野委員)
- 今回の戦略については、活動内容やアウトプット指標を中心に記載しており、インプット指標については記載しない。(経営監理課主幹)
- 参考資料に記載している人口データなど、令和2年度のデータを使用しているが、最新のデータに修正するのか。(荻野委員)
- 人口データについては、国勢調査のデータを引用しており、令和2年度のデータが最新となっている。(経営監理課主幹)
- さがみはらこども若者応援プランにある、子供を持たない理由等も載せて欲しい。そうすることで、どのような対策をとれば良いかが認知されやすくなるのではないかと。(荻野委員)
- 本市としても子ども、子育ての施策は重要だと認識している。記載する資料等については、他の分野とのバランスを勘案しながら、市として検討したい。(経営監理課主

幹)

- 今回は期間が短いので、インプット指標は使用せず、アウトプット指標のみが良いが、長期的な視点で見たときに、資源と効果の関係を見ていく必要がある。次期戦略にはインプット指標が入るという理解で良いか。(朝日委員長)
- 令和10年度以降の取組については、総合計画の動きを見ながら、インプット指標やインパクト指標の取扱いも含め、検討したい。(経営監理課主幹)
- P45の昼夜間人口比率が上昇傾向にあるが、良いことなのか。どの数字を目指すべきなのか。(出口委員)
- 取組の方向性としては、今より高めていくものであるが、どこまで高めるのかは難しい問題である。(経営監理課主幹)
- 市の施策としては、まちづくり分野の中で区画整理事業など、新たな産業用地の創出を行っている。市の方向性としては、昼夜間人口比率を高めていくことは間違いない。(政策部長)
- P33において、生成AIの活用を職員の働き方改革に資する取組として取り入れてはどうか。(出口委員)
- デジタル活用条例の中で、職員の責務を定めている。今後、推進計画において、どのような責務なのかが見えてるので、次期戦略においては、それを踏まえ反映させていきたい。(政策部長)
- 生成AIについては、民間企業でも導入されており、業務の効率化に活用されているが、市独自の活用などはあるのか。(山元委員)
- そこまでの議論はされていない。しかし、今後生成AIを活用していくことになると考えられ、どのようなルールの中で、どのような活用ができるのかといった検討をしていくことになる。(政策部長)
- P22について、今後の進行管理に当たっては、「各指標間の関係を検証しつつ」という文言を入れてはどうか。評価のフェーズにおいて、各指標がどのように関係してアウトカムへとつながっているのか、検証できると良い。(田中副委員長)
- 検討したい。(経営監理課長)
- 庁内では、短い計画期間の中で指標の追加や修正をどの程度行うのかという議論があったが、本委員会の議論の中では必要なことであるという意見があるので、事務局としては、この表現は残していきたい。(政策部長)
- 次回の委員会で評価の方法について議論したい。(経営監理課主幹)
- 不登校対策の内容が盛り込まれたことは良い。不登校対策として、教員免許のない高齢者の活用ができると良いのではないかと。(出口委員)
- 指標の目標値が現状追認となっていないか。設定が甘いのではないかと。(荻野委員)
- 戦略を策定するまでに議論していきたい。(経営監理課主幹)
- P26の指標の内、「訪りたい」や「住んでみたい」という指標はアウトカムではないのか。(荻野委員)
- アウトカム指標だが、他の審議会等で、この指標に対する進行管理がされないため

記載している。(経営監理課主幹)

- 具体的な数字ではなく、アンケートの調査結果が指標で良いのか。(荻野委員)
- アウトカムであれば「何人移住したか」といった指標となるが、それが施策の効果によって移住したのか判断が難しい。(朝日委員長)
- 指標が分かりにくい。当事者が設定した目標でないと、形式的な評価となってしまう。指標がどのような理由で設定されているのか、透明性が担保されると良い。今後の行政評価等を検討していく中で議論していくべきである。(朝日委員長)
- 生成AIについて、大学においても在り方は過渡期である。創造性の成長が阻害される等の懸念もある中で、市としてはどのように検討されているのか。(朝日委員長)
- 負の影響については、よく議論されていないというのが現状である。今後、議論していくべきである。(経営監理課主幹)
- P27の指標については、市長公室ばかりが並んでいるが、すべての課が取り組む必要がある。(田中副委員長)
- 市民参加につながるため、公募委員を増やしていくのが良いのではないかと。(竹田委員)

3 その他

事務局より概要を説明し、意見交換を行った。

4 閉会

全ての審議が終了し、閉会した。

以上

相模原市経営評価委員会委員名簿

(任期：令和5年7月15日～令和7年7月14日)

区分	役職	氏名	備考	出欠
学識	委員長	あさひ 朝日 ちさと	東京都立大学都市環境学部 教授	出席
	副委員長	たなか ひろゆき 田中 啓之	相模女子大学人間社会学部 教授	出席
		ほうじょう ひろあき 北 條 裕晃	公認会計士	欠席
		みやした ともひさ 宮下 量久	東洋大学経済学部 教授	欠席
団体		たけだ みきお 竹田 幹夫	相模原市自治会連合会 会長	出席
		まつした りゅうた 松下 龍太	相模原商工会議所 青年部前会長	欠席
一般 公募		おぎの ゆきこ 荻野 弓希子	公募	出席
		でぐち ただお 出口 忠夫	公募	出席
		ないとう たくみ 内藤 巧	公募	欠席
		やまもと ただお 山元 忠夫	公募	出席

(区分ごとに五十音順・敬称略)